

喘息発作とお母さんのストレス

2004年12月20日(月)

昨晚、喘息発作で眠れなかったと小学生1年生の男の子がお母さんに連れられて来院。

起座呼吸で横には苦しくて寝られない状態。喘鳴は、聴診器を当てなくても聞こえる状態。チアノーゼ（爪床、口唇が青紫色になること）まではいかないが、顔色は青みがあった状態。

治療後、待合室で椅子に座って休んでもらう。喘鳴も少し軽くなり、顔色に赤みを帯びて少し元気を取り戻した感じ。

原因は、本人のストレスとお母さんのストレスも絡んでおり、お母さんの治療を終えた後、お母さん曰く、やはり、「私のストレスが影響しているようですね」お姑さんに対するストレスが出ていたようで、前回の喘息発作の際も、丁度、お姑さんが来られる時だったとのこと、「お姑さんはいい人と思っはいるのですけれど、潜在的に色々と気にかけているのでしょうね」と、息子さんが喘息発作を引き起こす因果関係を納得されていた。

夫婦が喧嘩をすると、子供が熱を出すと、冗談のように言われるが、冗談ではなくそれは本当の本質的原因で、喧嘩をしたという明確な原因が分かればよいが、身体に影響を及ぼすお母さんの潜在的な感情の抑圧は、自分では認識できないことが多く、認識できないからこそ潜在的な感情の抑圧として原因になるのである。

ファミリーカイロに来院する子供の病気の原因の多くは、お母さんのストレスがほとんど絡んでおり、子供の治療と、お母さんの治療を同時に行なった方が、治りが早いですよと説明しても、西洋医学の考えに慣らされていればいるほど、その考え方は受け入れがたい。

子供自身のストレスも原因になるが、お母さんの潜在的なストレスがかなりの割合で影響を及ぼしており、そのお母さんのストレスを検査、治療すると明らかな結果が得られる。